

# カンボジアにおける持続可能な社会構築のための社会科カリキュラム・教科書開発支援事業に協力しました(8)

活動日時 2018年2月14日(水) – 2月26日(月)

活動従事者 桑山尚司, 大坂遊 (教育研究推進員), 升谷英子 (広島県東部教育事務所・指導主事)



広島大学インキュベーション研究拠点「教育ビジョン研究センター (EVRI)」は、ひろしま平和貢献ネットワーク協議会が受託したJICA草の根技術協力事業「カンボジアにおける持続可能な社会構築のための社会科カリキュラム・教科書開発支援」において専門家として協力しています。今回は、カンボジアにおける課題発見・解決型授業のあり方についての実践的なモデルの提案を目的として、EVRIメンバーの桑山、教育研究推進員の大坂、そして広島県東部教育事務所の升谷英子指導主事がカンボジアへ渡航しました。

今回の渡航では、升谷先生によるモデル授業の提案や、これまでの調査で明らかになったカンボジアの社会科授業の現状・課題の共有に加え、23日に教育省教育総局や関連部局に対して2017年度の事業の成果を報告するとりまとめ会合がもたれました。

会合では、今年度の一連の活動を通して、①カリキュラム開発局スタッフが多角的な視点からシラバス (カンボジアにおけるカリキュラムの呼称) について構想する姿勢が見られるようになった、②課題発見・解決学習に向けた探究プロセスがシラバスに記載されることになった、といった具体的な成果がカリキュラム開発局から報告されました。

一方で、報告会に同席していた教育省教育総局長などからは、「カリキュラム開発局のスタッフ自身が、新しいカリキュラムの特色を明確に説明できるような支援をしてほしい」など、広島側に対してさらに踏み込んだ要望が出されました。

このような成果と課題をふまえ、来年度以降は、新シラバスの理念をふまえた教科書の改訂作業に向けて、引き続き支援事業を行って参ります。

